

「これから何処に住む？、大きな町に避難する？」父と祖母の会話。地震で家を失った祖母が行く場所は直ぐ見つからず心配が続いた。電気も水道も希望さえも無くなった真冬の夜に「生まれ育った先祖の土地から離れたくない。」という祖母の本音の気持ちを聞くと本当に可哀想だった。

祖母の町は、令和 6 年 1 月の能登半島地震で全壊した。道路はずたずたになり、山は巨大な生き物の爪でえぐられたように崩れた。直ぐに自衛隊や他府県の自治体からの救助活動や物資輸送などの援助を受け、大急ぎで復興再建が進められた。少しずつだけど町が元通りに戻っていると感じていた矢先、九月の集中豪雨により川が氾濫し、田んぼや畑が泥水の下になってしまった。想像すらしなかった 1 年に 2 度の大きな自然災害は心の中で二倍以上のダメージを負った。全壊した家から何とか取り出した家財道具や思い出の品は全て流され、祖母は酷く落胆した。忘れた頃に何度も襲ってくる自然災害は姿を見せない生き物のようで憎くて恐ろしいと感じた。

私には一緒に行動した復興ボランティアの人が言った大切な言葉がある。「人は人に助けられ、人を助ける。」助けられる人と助ける人皆んなが輪のように繋がっていて、お互いに支え合っているという。更に繋がりとは二種類あって、見える繋がりとはボランティア、見えない繋がりとは税金だと教えてくれた。この人は東日本大震災で被災され、今の生活を取り戻すことができたのは復興税があったからだと教えてくれた。

私は復興税のことを調べてみた。正式には復興特別所得税と呼び、東日本大震災の復興のために、納税者の全員が通常の所得税に 2.1%を上乗せして支払う特別な税金だと知った。私は皆んなが被災した方を助けるための税金なので「助けたいぜい（税）」と名前を変えて覚えた。集められた復興税は、公費解体のほかに、被災者の生活再建支援金の補助金など様々な用途に大切に使われる。税金は税金を納める人と被災された方が遠く離れていても救うことができる重要なパイプであり、税金があるからこそ、直に救うことができるのだ。祖母がお世話になった自衛隊のお風呂も勿論、税金で賄われている。祖母は不安、悲しみ、迷いを乗り越えることができたのも、寒い冬に熱いお風呂に入らせてもらって一日をリセットできたからだと感謝している。ありがとうございます。

私たち家族は祖母の願いを叶えるため、今年の九月に小さいけど可愛い家をプレゼントすることを決めた。これを決めることができたのは税金の後押しがあったからだ。

日本では毎年、大地震、局地的集中豪雨による水害、台風などの自然災害が多く発生している。しかし、全てを防ぐことは無理だろう。そのために税金はある。私は将来、立派な納税者となって恩返ししたい。